

2010年(平成22年)3月10日

## ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 第2回受賞者決定および表彰式のお知らせ

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)では、「第2回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」の功労賞および奨励賞について、下記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」は、スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会に貢献された人物を表彰するもので、平成20年度に続いて今回で2回目の表彰となります。「平成21年度第2回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞表彰式」は、2010年3月26日(金)にヤマハリゾートつま恋(静岡県掛川市)にて開催いたします。

報道関係の皆様におかれましては、ぜひご臨席賜りますようお願い申し上げます。

記

### 【受賞者について】

#### 平成21年度 第2回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 功労賞

◇受賞者：塚越 克己(元・財団法人日本アンチ・ドーピング機構 事務局長)

◇選考理由：日本のスポーツ医・科学の発展を牽引した「緑の下の力持ち」

#### 平成21年度 第2回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 奨励賞

◇受賞者：増田 雄一(アスレティック・トレーナー)

◇選考理由：トップレベルのサポート技術を一般レベルに拡大する取り組み

### ※選考方法

2009年10月1日～11月20日の期間、候補者推薦の公募を実施し、大学、競技団体、メディア、ジャーナリスト等から推薦された候補者の中から、選考事務局による候補者選考会、並びに選考委員会による候補者決定審査を実施。その後、当財団理事長の承認を経て決定。

### 【表彰式について】

#### 平成21年度 ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 表彰式

◆日時：2010年3月26日(金) 午後2時30分より(受付:午後2時より)

◆場所：ヤマハリゾート つま恋(静岡県掛川市満水2000)

■ この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください  
公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)  
事務局：担当・河邊 〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500番地  
Tel. 0538-32-9827 Fax. 0538-32-1112 <http://www.ymfs.jp>

## ■ ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞について

「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」は、スポーツ界において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物を表彰するものです。スポーツ振興において「縁の下力持ち」として活躍する(した)チャレンジスピリットあふれる受賞者の実像を通じ、挑戦することの尊さを広く社会に伝播することを主な目的としています。

競技者をはじめ、指導者や研究者、また普及・支援、ジャーナリズムなどさまざまな分野において成果を上げた人々を表彰の対象とする一方で、目標に向かって自分自身を磨き上げるそのプロセスに着目し、その努力と成果に敬意を表して表彰を行います。

## ■ スポーツチャレンジ賞「功労賞」と「奨励賞」について

スポーツチャレンジ賞は、現在のスポーツ普及・振興の礎となった長年もしくは過去のチャレンジに対する「功労賞」と、表彰年度ごとに世界トップレベルの成果を生み、今後さらなる成長を期待される短・中期的なチャレンジに対する「奨励賞」の2部門があります。いずれの賞においても、これまで注目を浴びることが少なかったものの、本来は高く評価されるにふさわしいチャレンジを表彰します。

	功労賞	奨励賞
対象となる チャレンジ	長年にわたるスポーツ振興への貢献や過去の先駆的な実績を誇るチャレンジ	今後のスポーツ振興に大きな影響力が期待される、その年、極めて高い成果を上げたチャレンジ
表彰対象者	すでに優れた成果を上げ、功を成した人物	その年、高い成果を上げ、今後さらなる成長が期待される人物(チャレンジ発展途上人)
評価のポイント	長年もしくは過去に行われ、年数を経てから高い成果と認められた尊敬に値する礎的、先駆的なチャレンジであること。たとえば指導者、研究者、審判、ジャーナリストなどによる、その競技やスポーツ全体の底上げに貢献、もしくは海外などで裾野拡大に尽力したチャレンジなど。	短期的、もしくは中期的に行われ、その年に高い評価を受けた賞賛に値するチャレンジであること。たとえば指導者、研究者、トレーナー、サポートメンバー、審判、ジャーナリストなどによる世界レベルの成果を発揮するにあたり、重要な役割を果たしたチャレンジなど。
賞金／副賞	賞金 100 万円(チームの場合は 200 万円) 賞状・メダル	

## ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 選考委員

**選考委員長** 浅見俊雄 東京大学名誉教授・日本体育大学名誉教授

### 選考委員

西田善夫 NHK 元解説委員・スポーツアナリスト  
 加賀谷淳子 日本女子体育大学名誉教授  
 福永哲夫 鹿屋体育大学学長・東京大学名誉教授  
 伊坂忠夫 立命館大学理工学部教授  
 景山一郎 日本大学生産工学部教授  
 草加浩平 東京大学大学院工学系研究科特任教授  
 篠原菊紀 諏訪東京理科大学共通教育センター教授  
 寒川恒夫 早稲田大学スポーツ科学学術院教授  
 吉田茂 筑波大学人間総合科学研究科教授

綿貫茂喜 九州大学大学院芸術工学研究院教授  
 ヨーコゼッターランド 元バレーボール選手・スポーツキャスター  
 今給黎教子 海洋スポーツインストラクター・冒険家  
 村田亙 ラグビー7人制日本代表監督  
 大坪豊生 ヤマハ発動機株式会社取締役  
 鈴木正人 ヤマハ発動機株式会社取締役  
 岸川善次郎 ヤマハ発動機スポーツ振興財団事務局長

(敬称略)

## ■ 受賞者紹介と選考理由について

### ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 功労賞 塚越 克己



1937年2月10日生(73歳) 群馬県出身

東京教育大学体育学部卒業後の1960年に同大学体育学部専攻科(大学院)に進み、東京教育大学体育学部スポーツ科学研究室に在籍。卒業後は(財)日本体育協会 スポーツ科学研究所に籍を置き、1997年、所長として定年退職を迎えるまで日本のスポーツ医・科学発展の牽引者として数々の実績を残した。同年、(財)横浜市体育協会 横浜市スポーツ医科学センター健康科学課課長に就任。2001年には自ら設立にかかわった(財)日本アンチ・ドーピング機構の事務局長に就き、2008年に退職。

東京教育大学体育学部スポーツ科学研究室に在籍した1960年から現在に至るまで、約50年間にわたって日本のスポーツ医・科学の第一線で活躍した。東京オリンピックの前後から、アンチ・ドーピングに関する各種啓発活動を開始したのをはじめとして、高地トレーニングの研究と実践、強化指定選手制度の導入、日体協公認スポーツドクター制度の確立、青少年の体力に関する日中共同研究などのプロジェクト研究、秩父宮記念スポーツ医・科学賞の制定、国立スポーツ科学センターの設立等、さまざまなプロジェクトの推進役として多くの研究者のサポートを行ってきた。近年では、長年の研究テーマであったアンチ・ドーピング普及・啓発に情熱を傾け、(財)日本アンチ・ドーピング機構の設立と運営に尽力した。

日本のスポーツ医・科学の黎明期は、研究のための仕組みや機器など「ないものばかり」。測定機器がなければそれを設計し、仕組みがなければグランドデザインを描いてマネージャーにもなった。その姿は、まさに日本のスポーツ医・科学発展の「縁の下の力持ち」と言える。

### ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 奨励賞 増田 雄一



1961年5月22日生(48歳) 大阪府出身

同志社大学では陸上部に所属。腰痛に苦しんだ経験から選手をケアする側に興味を持ち、「スポーツの現場で必要とされているのは鍼灸の技術」という思いに至る。卒業後は鍼灸専門学校に進み、母校・同志社大学陸上部のコーチ兼トレーナーとしてアスレティック・トレーナーの第一歩を踏み出す。1987年、ミズノ(株)に入社。社員トレーナーとして陸上、バレーボール、卓球、ラグビーなどの現場で活躍。1989年、ユニバーシアード・デュースブルク大会(西独)に帯同したのを皮切りに、各種の国際大会にアスレティック・トレーナーとして派遣される。2001年に(有)リニアートを設立し、スポーツに親しむ一般の人々を対象にカウンセリングや治療を開始。1992年バルセロナ五輪(陸上)、1998年長野五輪、2002年ソルトレイク五輪、2004年アテネ五輪、2008年北京五輪に帯同し、日本選手の活躍を陰で支えた。

アスレティック・トレーナーとしてオリンピックの選手団に帯同するなど、さまざまな競技のトップ選手をサポートしながら、同時に「人々がスポーツを行う上で幸せになる環境を創造する」ことをめざして、①トレーナーの人材育成や雇用促進(活躍の場の拡大)、②各競技団体や学校、大会等へのトレーナー派遣、③研修会や講習会を通じた知識・技能の開示等を積極的に行い、アスレティック・トレーナーの地位向上と、トップレベルのケアで築いた経験や技能を社会や一般スポーツ愛好家に還元する取り組みにチャレンジしている。

現在、サポートを行っているのは、7人制ラグビー日本代表チーム、JR東日本ランニングチーム、サントリーラグビー部、サントリーフーズラグビー部、日立ハイテククーガーズ、JOMO サンフラワーズ、昭和学院高校女子バスケットボール部、昭和学院中学女子バスケットボール部、日本陸上競技連盟ナショナルチーム、立教大学女子バスケットボール部、東邦高校ハンドボール部など。

※2010年3月10日現在